

## 弟子としての生き方の現れ

「あなたがたの信仰による働き、愛による労苦、そして私たちの主イエス・キリストへの希望による忍耐を、神であり私たちの父である御方の御前で、絶えず思い起こしています。」

テサロニケ人への第一の手紙 1:3

キリストの弟子とは、イエスを自分の救い主として受け入れた人々のことです。さらに、彼らは、十字架を背負い、死に至るまでイエスの足跡に従うという招きを受け入れることによって、イエスに代表される神の大義に自分の人生を捧げています。（マタイによる福音書 16:24）。「弟子」という言葉は「学び手、または生徒」を意味し、キリストの弟子たちは、自分たちの師として受け入れたイエスから教えを受けます。イエスの教えは、天の父の御心を反映したものです。

イエスはナタナエルについて、「見よ、まことのイスラエル人だ。彼には偽りが無い。」（ヨハネ1:47）と言われました。これは、イエスの時代には、イスラエル人として見なされていたが、実際にはそうではなかった人々、すなわち、その生活がイスラエルの神の御心に十分に調和していなかった人々がいたことを示唆しています。そのため、彼らはイエスを約束されたメシアとして受け入れませんでした。これは、キリストの弟子たちによって構成される現在の霊的イスラエルについても同様です。「真の」弟子たちがいる一方で、イエスの追隨者であると公

言しながらも、主の教えに従わないため、名ばかりの弟子である者たちもいます。

心の誠実さは、真の弟子となるための基本的な資質の一つです。誠実な者は、単なる言葉だけでなく、行いによっても自らの信仰を現そうと努めるでしょう。使徒ヨハネはこう記しています。「子供たちよ、言葉や口先だけで愛し合うのではなく、行いと真実をもって愛し合いましょ。それによって、私たちは真理に属していることを知り、御前で心を確信することができるのです。」（ヨハネの手紙一 3:18,19）

冒頭の聖句が宛てられているテサロニケの兄弟たちは、明らかに「行いにおいても真実においても」非常に忠実であり、弟子としての信仰の真摯さを示していました。パウロは、彼らの信仰による働き、愛による労苦、そして希望による忍耐を称賛しました。キリストの真の弟子である者は皆、山をも動かすような信仰を持ち、愛に満ち、主と真理と兄弟たちへの奉仕において忍耐強く、辛抱強くなければなりません。

## 信仰の働き

パウロは、テサロニケの兄弟たちの「信仰の働き」を称賛しました。これは非常にふさわしい表現です。なぜなら、真の信仰があるところには、必然的にそれに伴う行いが伴うからです。ヤコブは、「信仰に働きが伴わなければ、その信仰は、それだけでは死んでいるのです。「ある人は言うかもしれない。『あなたには信仰があり、私には行いがある。行いのないあなたの信仰を見せてくれ。そうすれば、私

は自分の行いによって、私の信仰を見せてあげよう』と。」（ヤコブ2:17,18）。ヤコブが用いた例えは、貧しい兄弟姉妹が私たちの交わりにやって来るといふケースでした。（ヤコブ2:15,16）。もしその人を無視するなら、それは真の信仰から生じるべき行いの欠如を露呈することになります。

信仰が働く方法は数多くあります。パウロはヘブル人への手紙の中で、その多くに言及しています。この記述の一部を引用すると、次のようにあります。「信仰によって、アベルはカインよりも優れた供え物を神にささげました。...信仰によって、ノアは、まだ見ぬことについて神から警告を受け、恐れを抱き、家族を救うために箱舟を造りました。... 信仰によって、アブラハムは、後に相続として受け継ぐべき地へ出よと召されたとき、従った。.....また信仰によって、サラ自身も子を宿す力を与えられ、年老いてから子を産んだ。.....信仰によって、アブラハムは試みられたとき、イサクをささげた。.....信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの二人の息子を祝福した。..... 信仰によって、ヨセフは死ぬ時、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骨について命じました。.....信仰によって、モーセは成長して、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、一時的な罪の快樂を楽しむよりも、むしろ神の民と共に苦難を受けることを選びました。」ヘブル人への手紙 11:4-25

これらは、パウロが旧約聖書の多くの登場人物の生涯から読み取った信仰の現れの一部に過ぎない。そして彼はこう付け加える。「さらに何を語ろうか。ゲデオン、バラク、サムソン、エフタのことは言う

までもなく、ダビデ、サムエル、そして預言者たちのことを語り尽くすには、時間が足りない。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束を受け、獅子の口を封じ、火の勢いを消し、剣の刃を免れ、弱さから強さへと変えられ、戦いに勇猛となり、異邦人の軍勢を退けた。また、女たちは死んだ者を受け取り、よみがえらせた。」ヘブル人への手紙 **11:32-35**

ここでパウロは、主が信仰ある者たちを喜ばれたことを示す形で報いられた事例における、信仰による働きについて言及している。そして彼は次のように続ける。「またある人々は、残酷な嘲笑や 鞭打ち、さらには鎖につながれ、投獄される試練に遭った。彼らは石打ちにされ、のこぎりで引き裂かれ、試みられ、剣で殺された。彼らは羊の皮や山羊の皮を身にまとい、放浪し、貧しく、苦しめられ、苦しめられた。（彼らは、この世にふさわしくない人々であった。）彼らは荒野や山々、また地の洞窟や穴の中で放浪した。」ヘブル人への手紙 **11:36-38**

ここに示されているように、多くの人々が試練と迫害を経験しました。それは、彼らが信仰によって主の大義のために立ち、周囲を取り巻く悪の勢力と妥協しなかったからです。その好例が、ネブカドネザルの命令によって建てられた像にひれ伏すことを拒んだダニエルの三人の友人の事例です。この像を礼拝することを拒んだ者は、燃え盛る炉に投げ込まれ、滅ぼされることになっていました。（ダニエル書 **3:1-12**）。二度目の機会を与えられ、ネブカドネツアル王からの警告を受けた後、これらの忠実な勇士たちはこう言いました。「もしそうであるなら、私たちが仕える神は、燃え盛る火の炉から私たちを救い

2026年4月 31

出されるでしょう。そして、王よ、神は私たちがあなたの手から救い出されるでしょう。しかし、もしそうでないとしても、王よ、あなたがたに知っておいていただきたい。私たちはあなたの神々を仕えることも、あなたが立てた金の像を礼拝することも決してしない。」ダニエル書3:17,18

ここでの信仰の働きとは、ネブカドネザルが立てた金の像を礼拝することを拒んだことでした。この三人のヘブル人は、自分たちの神が、燃え盛る炉での残酷な死から彼らを救い出すことができると信じる信仰を持っていました。一方で、彼らが死の運命にあるかどうかは、彼らには分かりませんでした。しかし、結果がどうであれ、信仰は彼らに誘惑に対する勝利をもたらしました。彼らは、もし死んだとしても、それは彼らの神が、この が最善であると見なされたからだと信じる信仰を持っていたのです。彼らの真の希望は、「より良い復活」における救いでした。ヘブル人への手紙 11:35

## 愛の労苦

愛が働く方法は数多くあります。パウロはヘブルの兄弟たちに対し、次のように書きました。「神は、あなたがたが聖徒たちに仕え、今も仕えていること、すなわち、御名のために示した愛の働きと労苦を、忘れられるような不義な方ではありません。」（ヘブル人への手紙 6:10）。ここで言及されている「愛の労苦」とは、兄弟たちのために行われるものです。これは、主が私たちが愛してくださったように、私たちも互いに愛し合うべきだという主の教えと一致しています。私たちに対する主の愛は、私たちのために命を捧げるように主を動かしました。した

がって、ヨハネは戒めの中で、私たちが愛に満たされるべきだと記しています。「私たちは兄弟たちのために命を捨てるべきです。」（ヨハネの手紙第一 3:16）

愛の働きは自発的なものです。人は愛によって促されることはあっても、強制されることはありません。愛は利他心に基づいており、神に由来するものです。神の中に、私たちは愛の最高の模範を見出します。神のすべての創造の業は、ある意味において神の愛の証しです。神はご自身が創造されたものを必要としていませんでした。それらは、神の被造物の益となるためのものでした。神の愛の最も傑出した現れは、世の贖い主であり救い主となるために、御独り子をお与えになったことにある。「神は、その独り子をお与えになるほどに、この世を愛された。それは、御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠の命を得るためである。」ヨハネ3:16

新約聖書には、ギリシャ語の「アガペー」（愛を意味する）が「チャリティ（慈善）」と訳されている箇所がいくつかあります。聖書を学ぶ人々の多くは「チャリティ」よりも「愛」という訳語を好みますが、純粋な「チャリティ」という概念こそが、聖書が示す神の愛の意味により近いものなのです。慈善とは、見返りを期待することなど到底できない人々に対して与える行為です。これは、神が御子を賜ったことにも当てはまります。この賜物を受け入れる際、私たちにはそれを報いる術など何一つないということを理解して受け入れるのです。私たちにできることは、その賜物を受け入れ、それを与えてくだ

さった方に心を尽くして人生を捧げることで、感謝の意を表すことだけです。

愛は労苦し、愛は与える。それゆえ、愛は主、真理、そして兄弟たちへの奉仕の中に現れる——すべて「見返りを求めず」に。愛が心を満たすところには、愛の労苦がある。他者、とりわけ兄弟姉妹のために、日々の犠牲が払われるでしょう。主に仕え、主の栄光を現すための燃えるような熱意が生まれるでしょう。そのような現れがないとき、それは単に愛が欠けていることを意味します。ヨハネが問うたように、そのような者の中に「神の愛はどのように宿っている」のでしょうか。1ヨハネ3:17

パウロは、主の弟子たちの心と生活の中にあってはならない、他の愛の働きについても言及しています。「愛は寛容であり、親切であり、……嫉妬せず、……自慢せず、高ぶらず、礼儀をわきまえており、自分の利益を求めず、怒らず、悪を思わない。不義を喜ばず、真理を喜ぶ。すべてに耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。」（コリント人への第一の手紙13章4-8節）。墮落した肉体の私たちに、これらの様々な資質に完全にかなうほど愛に満たされることが期待できるわけではありません。しかし、そうしたいという心の願いがあるならば、それらは互いの交わりの中で、また世の中で出会う人々に対して、大きく現れてくるでしょう。

## 忍耐をもって希望を抱く

パウロはまた、テサロニケの兄弟たちの「主イエス・キリストに対する希望の忍耐」を称賛しています

。別の箇所では、彼はこう記しています。「私たちは希望によって救われています。しかし、見える希望は希望ではありません。なぜなら、人が見ているものを、なぜなおも望むでしょうか。」（ローマ人への手紙 8:24）。キリストの弟子として、私たちは主が約束されたこと、すなわちまだ目に見えないことを望んでいるのです。初代教会において、これらの中で最も重要なものは、キリストの御国が築かれることでした。彼らは、その御国でキリストと共に生き、支配することを望んでいたのです（黙示録 20:6）。私たちはその時がますます近づいていることを知り、喜びますが、キリストと共に生き、支配するという希望の成就を、今も待ち望んでいます。私たちは、初代教会の弟子たちと同様に、今もなお「希望に満ちた忍耐」を必要としているのです。

この待ち望みには忍耐と根気が必要です。なぜなら、待ち望む間には耐えなければならない試練があるからです。パウロはまたこう記しています。「私たちは、苦難の中でも誇りとしています。苦難は忍耐を生み、忍耐は経験を生み、経験は希望を生むからです。そして、希望は私たちを恥じさせません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」ローマ人への手紙5章3-5節

ヘブル人への手紙には、キリストの約束された再臨について記されており、それは弟子たちの忍耐の必要性和直接結びついています。「あなたがたには忍耐が必要です。神の御心を行なった後、約束を受け取るためです。あと少しの間、来るべき方は来られ、遅れることはありません。義人は信仰によって生

きる。しかし、もし誰かが後退するなら、わたしの魂はその人を喜ばない。」（ヘブル人への手紙 10:36-38）。使徒ヤコブの手紙には、次のように記されています。「それゆえ、兄弟たちよ、主の来臨（ギリシャ語：臨在）まで忍耐しなさい。見よ、農夫は地の貴重な実りを待ち望み、そのために長い間忍耐し、初雨と遅雨を受けるまで待ち続けるのである。あなたがたも忍耐し、心を堅く保ちなさい。主の来臨[臨在]が近づいているからである。」ヤコブ 5:7,8

主の摂理において、主はしばしば、ご自身の計画の成就における展開が、実際にはそうではなかったにもかかわらず、人々の目にはもっと目前にあるかのように思わせることがありました。これは、キリストの再臨と御国の確立に関して特に当てはまります。初代教会の弟子たちの多くは、キリストの再臨がすぐそこにあると信じていました。しかし、ペテロや他の者たちは、自分の生涯を終える前に、それが自分たちの時代には起こらないことを見抜くことができました。とはいえ、神の計画におけるこの画期的な出来事が実現するまでに、これほど多くの世紀が経過することになると、誰一人として気づいていたかどうかは疑わしいことです。

それでもなお、この栄光に満ちた希望は極めて尊いものであったため、彼らは忍耐と根気をもって、その実現を日々待ち望んでいた。テサロニケの兄弟たちも同様であり、本節のパウロの観察から判断するに、彼らは主の奉仕に引き続き積極的に従事することで、適切な方法で希望が成就するのを辛抱強く待ち望んでいた。彼らは積極的に待ち望んでいたのです。

## メッセージを宣べ伝える

今日の聖句において、使徒パウロがテサロニケの兄弟たちの「信仰による働き」を称賛した際、彼が指していたのは、キリストの福音を宣べ伝える彼らの活動でした。これは、使徒の言葉の文脈から明らかになります。続く節にはこう記されています。「私たちの福音は、言葉だけによってあなたがたに伝えられたのではなく、力と聖霊と、そして確信をもって伝えられたのです。あなたがたも知っているとおりに、私たちはあなたがたのために、あなたがたの間でどのような者であったか。そして、あなたがたは、多くの苦難の中にあっても、聖霊の喜びをもって御言葉を受け入れ、私たちや主イエス・キリスト（ ）の模範に従う者となりました。それゆえ、あなたがたはマケドニアとアカイアにいるすべての信者たちの模範となったのです。「あなたがたから、主の御言葉がマケドニアやアカイアだけでなく、あらゆる場所に響き渡り、あなたがたの神に対する信仰が広く知れ渡ったため、私たちが何も語る必要はありません。」 テサロニケ人への第一の手紙 1:5-8

ここでパウロは、テサロニケで弟子となった人々に対して、どのように福音を証したかについて語っています。彼の熱意と忠実さは、彼らに明らかに示されていました。彼は、自分自身がキリストに従ったように、彼らもまた自分の後を追う者となり、福音を宣べ伝えるという宣教の熱意を模範として示したと述べています。このため、彼らもまた「マケドニアとアカイアにいるすべての信者」にとつての模範となったのです。そして、その理由を次のように説明しています。「あなたがたから、主の御言葉が

マケドニアやアカイアだけでなく、至る所に響き渡り、あなたがたの神に対する信仰が広まったからです。」これらは驚くべき言葉です！

私たちが弟子であると公言する主であり師であるイエスは、私たちが全地において彼の証人となるべきだという指示を残されました（マタイ28:19、使徒1:8）。もし私たちが彼と彼の導きを信じるなら、その指示に従うはずです。心から従わないことは、信仰の欠如の証拠となるでしょう。なぜなら、この信仰による働きが私たちの日常生活から欠落してしまうからです。むしろ、主の御言葉を広く遠くに響き渡らせたテサロニケの兄弟たちのようでありましょう。こうして彼らは、パウロが示した模範に従うことにおいて、自らの忠実さを証明したのです。彼らは、パウロがイエスに従ったように彼に従いました。イエスご自身もまた、御国の福音を宣べ伝えることに忠実であられたのです。マタイ4:17；ルカ4:43

## 今日における同じ試練

現代の私たちは、神の計画の成就に関して、初代教会の信徒たちよりもはるかに多くの知識を持っています。それにもかかわらず、辛抱強く耐え忍ぶという試練は、私たちにも課せられています。私たちは皆、御国の希望が速やかに実現することを願っていますが、それがいつになるかについては確証がありません。パウロの時代の兄弟たちと同様に、私たちもまた、いつまでこのように仕え、犠牲を払い、苦しみ続けることになるのかを知ることなく、主に仕えるために命を捧げ続けるよう命じられています。

だからこそ、私たちは希望に満ちた忍耐を必要としているのです。待ち時間がどれほど長くとも、また、待ち続ける間、主の奉仕においてどれほど厳しい経験に直面しようとも、希望を持ち続けることができるのは、この忍耐があるからです。これはまさに忍耐の試練です。希望の実りが遅れているように見えるというだけの理由で、真理とその奉仕に対する当初の熱意を失ってはなりません。神は完璧な時を司る方であり、神の計画のあらゆる細部は、神が定められたまさにその時に実現しつつあります。もし私たちにとってその御計画が遅れているように思えるとしても、実際にはそうではないことを悟りましょう。（ハバクク2:3、ヘブル10:37）。むしろ、主は私たちの希望に満ちた忍耐を試しておられ、待ち時間がどれほど長く感じられようとも、私たちがどれほど熱心に主に仕え続けるかを見守っておられるのです。

パウロがヘブルの兄弟たちに、神は彼らの愛の労苦を忘れるほど不義な方ではないと確信させた際、彼はこう付け加えました。「私たちは、あなたがた一人ひとりが、希望を最後まで確信し、同じ熱心さを示すことを願っています。」（ヘブル人への手紙6:10,11）。信仰による働き、愛による労苦、そして希望による忍耐が、たとえ短期間であれ長年にわたって続いたとしても、それだけでは不十分です。真の弟子としての試練とは、狭い道の終わりまで、死に至るまで忠実であり続けることです。「死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与える。」ヨハネの黙示録 2:10

イエスは種を蒔く人のたとえを説明して、こう言われた。「このたとえの意味はこうだ。種は神の言葉である。道端に落ちた種は、御言葉を聞く者たちである。しかし、悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、彼らの心から御言葉を奪い去る。岩の上に落ちた種は、御言葉を聞いて喜びをもって受け入れる者たちである。しかし、彼らには根がなく、しばらくは信じるが、試練の時には離れてしまう。また、いばらの中に落ちた種は、聞いた後、出て行って、この世の心配や富や快樂にふさがれ、実を結ばない人々である。しかし、良い土に落ちた種は、誠実で良い心を持って御言葉を聞き、それを守り、忍耐をもって実を結ぶ人々である。」ルカによる福音書8章11-15節

いばらの中に落ちた種は、主のすべての弟子たちに対する特別な警告を含んでいます。私たちは、この世の心配事が、信仰による働きや愛による労苦を不当に妨げることのないよう、警戒しなければなりません。「善を行うことに忍耐強く励むこと」こそが、この危険に対する最良の防護策であり、また、私たちの歩みが終わるまで労苦を続けるための尽きることのない力を祈り求めることも同様です。ローマ人への手紙 2:7

最後に、主の財産を忠実に用いた僕について、タラントのたとえ話には次のように記されています。「主人は彼に言った。『よくやった、良い忠実な僕よ。わずかなことに忠実であったから、多くのことを任せるつもりだ。主人の喜びにあずかれ。』」（マタイによる福音書25章21節）。私たち一人ひとりが、この地上の旅路の終わりまで、「神であり、私た

ちの父である御方の御前で」、信仰の働き、愛の労苦、そして希望の忍耐を忠実に続けていきますように。